

平成28年度第1回岡山市総合教育会議

日時：平成28年5月23日（月）

場所：市庁舎 第3会議室

○司会 定刻となりましたので、ただいまから平成28年度第1回岡山市総合教育会議を開催いたします。

本日は東條教育委員長がご欠席ですが、運営要綱の定めにより会議は成立しております。

傍聴の希望がありますが、入室を許可してよろしいでしょうか。

（「お願いします」の声あり）

○司会 傍聴者の入室を許可します。

〔傍聴者入室〕

○司会 それでは、協議事項に移らせていただきます。

議事の進行は、招集権者である市長にお願いしたいと存じます。市長、よろしく願いいたします。

○市長 はい。では、次第に沿って議事を進めます。

まず、他の政令市の開催状況について、ご説明をお願いいたします。

○ベネッセ(西島) ベネッセコーポレーションの西島でございます。お手元の資料1に基づきまして、他の政令指定都市での大綱の検討状況、また後半、大綱を検討するに当たりまして今後の日本の教育がどのような方向に動いていくかということについてご報告をさせていただきます。

では、めくっていただきまして、3ページのところからでございます。

これは政令指定都市を一覧にしております、大綱策定の進捗について、全体の中で14の市が完成、それから4つの市が既にある計画で代替、そして岡山市様と広島市様につきましては検討中ということでございます。

その内容でございますが、次のページからご覧をいただきたいと思います。

まずは全体のイメージということでページ数を見ていきますと、1ページもしくは2ページぐらいの本当に大綱といいますか、全体のことを語られてるのが6つぐらいの市、それから 少しばらけますけれども、一番多いのが熊本市の16ページということでございます。 さまざまな形式がございます。

また、その大綱には前書きがあり、その後、柱とといいますか、こういった取り組みを中心としてやっていくというふうな宣言のような構成になってるんですけども、それは5ページにあります。その柱というふうに言われるものの数がどれぐらいあるかということで分布を書いてございます。多くは3つ、4つぐらいで大綱というふうなことで全体が見えるようなものが多いというふうな状況でございます。

次のページですけれども、そのテーマ、柱と呼んでおりますが、どのようなテーマを扱っているかということで整理をしたものなんですけれども、6ページにありますのはaからn、その大綱を見ていきまして、どんな要素があるかということで記号を振りまして、その頻度ということで、これは11の政令指定都市がaの安全、安心な教育環境というのを扱っているというふうな数字になっております。これ、もう少し見やすく次のページように表にしてみました。

こうやって見ていきますと札幌市、仙台市とずっと縦に市が並んでおりますが、aやh、今の安全、安心のところですか生涯学習、あるいはiの文化、芸術、スポーツ振興というあたりは、かなり多くの自治体で扱っていらっしゃる。また、横に丸を見ていきますと、仙台市あるいは横浜市、川崎市それから神戸市のあたりは、かなり広範囲にわたってテーマを扱っていらっしゃるというふうなことがご覧いただけるかと思えます。逆に、例えば新潟市などですと3つのテーマしか使っていないというふうなことがご覧いただけるかと思えます。このようなさまざまなテーマを各政令指定都市としては扱っていますというふうな一覧でございます。

次のページ、8ページからは大綱の柱と先ほど言いましたテーマとといいますか、その文言を抜き書きをしてきたものになります。札幌市の場合は前書きがあって、3つの実行の柱ということでこの3つ、子どもたちが云々、学びや成長の云々、ふるさと札幌へ云々ということで3つの柱がつけられているということで、こういった各市、柱とといいますか、テーマを定めてつけられているというふうな状況でございます。一つ一つは触れませんが、こんな形でテーマ設定をされているというところでございます。これが10ページ、11ページに続いております。

まず、概要を見ていただきましたが、次にちょっと資料の向きが変わってしまいますが、個別の都市の大綱ということで幾つか、どちらかというところページ数が少ないものをお持ちしております。

まず最初のところ、札幌市ですが、教育の方針があり、柱が3点あるというふうな構

成になっています。

また次のページ、相模原市になります。こちらにも前書き、基本的な姿勢というものが、次のページに3つの柱、重点的な取り組みということで3つが掲げられ、対象期間が定められるというふうな構成になっております。

次の新潟市もほぼ同様で、目指す子どもの姿・市民の姿、そして取組の方針と柱、期間ということで構成をされております。

次の浜松市につきましても、前書きがあり、3つの柱がありというふうな形になっております。

これ以外の長文なものは、本当に教育振興基本計画と同様のつくりになっていたりしますし、さまざまなつくりがありますけれども、今日は具体的などころでは短めにつくられているところを持ってまいりました。

次の17ページからは参考資料ということで、国の教育振興基本計画のテーマがこんなものがありますということで、今後大綱を検討していくに当たりまして、こんな項目も検討したほうがいいよねというふうな議論の一つの端緒に使っていただければということで整理をしてまいりました。

次の18ページも同様でございます。

また、19ページにありますのは、教育基本法の条文の中で他の政令市に関連したところを書かれているのがこういったものがありますということで持ってまいりました。これも参考資料ということでございます。

以上、このような形で多くの市では既に完成している、あるいは他のもので代替するという形で決まっている状況でありますけれども、岡山市様におきましては、これから検討ということでございます。

今年度検討するという事は実はメリットもございまして、今年度の末に中教審の答申が出る予定でございます。恐らくこれまでの通例でいきますと、秋口には中間まとめが出て、そこでパブリックコメントを求めるというふうなスケジュールになってまいります。次の学習指導要領の告示は恐らく、平成29年度末になると思いますが、今年度出てくる中教審の答申でほぼ今後の教育がどうなるかということとはわかってまいります。その中間まとめを踏まえて決定できるという意味では、今年検討する意義というのは非常に大きくあるのではないかとこのように考えます。したがって、今回お持ちしましたのは、その中教審での次の学習指導要領の検討状況等をご紹介したいということ

で、20ページ以降お持ちしております。

今回の学習指導要領の改訂の本当に大きなコアは何かというふうに一言で申しますと、社会と教育をどうつなぐかというところだと思います。ここでは20ページの上のところ「どのように社会・世界と関わり、よりよい人生を送るか」というふうに書かれております。左下に「何を知っているか 何ができるか」というように書いてあります。「個別の知識・技能」、これはこれまでも学習指導要領の中で、こういった内容をこの学問の系統にひもづく教科の中で学習をしていこうということで、何をというところは非常に明確に書かれておりました。

ただ、これから重視していかなければならないのは、右側、「思考力・判断力・表現力」と書かれております。これは今でも思考力・判断力・表現力というのは重視されているんですけども、幾つかの文章の中では今国が発信しているものの中には答えが一つに定まらない問題に対して、どのように解を導いていくのかというところの思考力・判断力・表現力を養っていくんだということが明記されてまいりました。したがって、単に思考・判断・表現ということではなく、答えが決まらない、つまり私たちが社会の中でいろんな社会活動の中で行っている思考活動と同様のことを学校でしっかりやっっていこうということかと思えます。

そういった力をつけていかなければならないということとともに、上にあります「主体性・多様性・協働性」と書いてありますが、主体的に課題を解決していくんだと、主体的に多様な人々と協働をしていくんだというふうなことをうたっっていこうというふうにしています。この主体性それから多様性、協働性というあたりも、かなり強化されていて、決して学ぶ中身だけの問題だけではなく、どのように学ぶのかということが大事であるということが定義されます。それが真ん中に書かれておりますが、「アクティブ・ラーニングの視点からの不断の授業改善」、これは決して話し合い活動をしっかりやりましょうという意味ではなく、学ぶ人たち、学習者がしっかり頭も目も手も体も動かしながらアクティブな学習、パッシブではない学習をしていこうというふうな意味合いでございます。

また、「学習評価の充実」というところは、PDCAサイクルをしっかり学校としても、あるいは教育委員会としても、あるいは学習者本人としても回していけるようにしていこうというふうなところで、評価をしっかりやり、次につなげるということを重視していこうということが言われております。このように学び方を変えるというところ

も、とても大事なポイントになるということになります。

したがって、今後大綱を考えるとというふうになったときに、これと全く同じになることはないと思いますが、方向性としてやはり社会と学校教育をどうつなげるかというところは意識してもよいのかなというふうに思いますし、答えが1つに決まるようなテストの回答ができる力をつけるのではなく、答えが1つに決まらない問題に対して子どもたちもどう取り組んでいって力をつけていくのかということも少し意識ができるというふうに思っております。こういったところを参考にしながらも、今年度検討するからこそそのよさを出していけたらいいのかなというふうに考える次第でございます。

それから、21ページ、22ページは今お話し申し上げた内容でございますので、また後ほどでもご覧いただければというふうに思います。

それからもう一つ、大きな動きがあります。これまでは学習指導要領が改訂されたり教科書が変わったりしても、入試が変わらないと何も変わらないよねというふうなことがよく世間では言われておりました。ところが、今回は入試も大きく変わると、大学入試も大きく変わるということになります。それが23ページでございます。

高大接続システム改革会議というものが3月まで開催されておまして、3月に最終報告が出てまいりました。そこで、先ほども申しましたような学力の3要素、知識・技能、それから1つに答えが決まらないものに対してどうするか、そして主体性を持って多様な人々と協働すると、こういったものが学力の3要素であり、これを育てるのが学校教育としてコアになるということが打ち出され、また次の高校教育改革の「三つの観点」の最後の行にありますように、そういった多様な学習をした子どもたちに対して多面的な評価を推進していくということが言われています。この多面的な評価を学校の中だけではなく入試でも行っていこうというのが次の入試改革になります。

24ページのほうでございます。

これまでは大学入試センター試験がマーク式であるということから、答えを再生産するだけのテストじゃないかという批判もたくさんございました。そういった批判を受けながら、じゃあ今後どうするのかということで、センター試験の後継の入試というふうにご覧いただければいいと思うんですが、全国共通で大学入学希望者学力評価テスト（仮称）というものをやっっていこうというふうに検討が進んでおります。そこではマーク式の問題もあるんですけども、それだけではなく記述式の問題あるいは英語のスピーキングの問題、そういったものも取り入れて本当に多様な力をはかっていこうと。し

かも、記述式でも答えが1つに決まるものではないものも出していく可能性があるというふうなことで今検討が進められております。

それを共通テストとして行いながら個別の大学の試験においてはさらに多様な評価ということで、次の枠の中にあるようなことをやっていく。今ではなかなかまだできていませんが、面接やディベート、討論、プレゼンテーションのようなこともやっていこうというふうなことで、入試が大きく変わるという局面があります。決して大学入試のために学校教育があるわけではありませんが、社会と学校をつなぐという意味で、こういった力を試していくということは恐らく社会と学校をつなぐ意味では非常に有効な方向ではないかというふうに思います。したがって、こういったことができる子どもを育てていく、ひいては社会で活躍できる子どもたちを育てていくというところにつながっていくのかなというふうに考えてます。

最後のページですけれども、そのスケジュールを示しております。

一番上のところは中教審、先ほど申しましたように今年度末には答申が出ます。恐らく秋口には中間まとめというものが出てくるかと思えます。そして、指導要領が平成29年度末には告示され、平成30、平成31は恐らく小学校、中学校の移行措置というふうなことがあり、平成32年度から小・中・高と段階的に移行していくというような形になると思えます。また、今日は触れませんでした、高等学校基礎学力テストということも並行して検討されており、平成31年度あたりから基礎的な学力を全ての高校生が得られるような、そういったPDCAサイクルを回すためのテストをやろうということで今検討がなされています。

そして、最後のところは、先ほど申しました入試の改革ということで平成32年度からということになります。つまり、今年度、今中学2年生の生徒さんが大学入試に向かわれるときには上記、24ページで示しましたような新しい入試に変わるということになります。決して知識の再生産だけではない、本当に思考力、表現力を持っている子どもかどうかということが問われる時代になってくるということになります。こういった入試の変化も踏まえ、学習指導要領の変化も踏まえ、今後の教育はどうあるべきかということも踏まえながら大綱の検討ということに入っていければいいかなということで情報提供をさせていただきました。

以上でございます。

○市長 はい、ありがとうございました。

今のベネッセさんのご説明に対しまして、何かご質問とかあればお願いしたいと思いますが。

○藤原委員 さっきベネッセさんのほうから今年中教審の答申の中間まとめがある年というところをお聞きしたんですが、少し漏れ聞こえてくることはあるんですかね。高大接続とかそういうこと以外に、新しい教科も見えてはきてるんですけども、新しく今年大綱をつくるときにメリットというふうなお話もあったんですけど、何か情報があったら教えてください。

○ベネッセ(西島) 分科会といいますか、教育課程分科会の中のさらなるワーキンググループの検討も3月ぐらいから加速し始めてきておりまして、会議の資料というのはもうだいぶ公開をされてきています。それがまた結構大量なんですけれども、そういったものを整理して、またご提出することは可能かなと思います。恐らく例年といいますか、過去の例でいいますと9月、10月ぐらいに中間まとめが出ますので、そこにはある程度もう全てが吸収されてる状況。それ以前にさまざまな情報をご提供するとしたら、そういった審議会の中での資料をまとめてご提供するということは可能かなとは思っております。

○藤原委員 今びっくりするような情報というのは、すごく変わるとか中教審に盛り込まれそうな今まで出てきた情報以外に聞こえてくることはないんですか。

○ベネッセ(西島) ええ、それほど恐ろしいことはないというふうに今は見ておりますが。

○ベネッセ(梅田) 小学校、中学校につきましては、これまでの流れを踏襲するという形で議論が進んでまして、ただ一方では高等学校をどう変えていくかというのがかなり焦点化されてまして、今まで小・中・高の指導要領の書き方が若干違ってたんですけども、今後小から高まで一貫してもう流れをつくってしまおうというのがどうも考えにあるようです。

○山脇教育長 今20ページのところなんですけれども、学習指導要領改訂の育成すべき資質・能力の3つの柱というのがありますが、この図自体はこれはどうなんですか。ベネッセさんがその辺の情報を集められて、こうではないかというふうに整理をされた図であると。

○ベネッセ(西島) これですね。すみません。この20ページの下に書いてありますが、教育課程企画特別部会で提出された資料を写させていただきました。

○山脇教育長 ということは、この一番下のベースのところにあります、例えば何を知っているか、何ができるかという認知的能力と、それから右側の非認知的能力と言えいいのか、そういうものが、やはり相まみえながら子どもたちのこれからの社会、世界の中でどのようにかかわって生きていけばいいのかという方向性を目指していくんだということについては、もう同じであろうということ。

○ベネッセ(西島) はい、そうですね。

○山脇教育長 もう一つ、今のお話で、高大接続はいいんだけど、中高接続が見えてこないんだなあと思う気がするんですね。今の能力、子どもたちの課題、岡山市の課題というものも踏まえて、今いかにそれを伸ばしていかないと、PISA型の能力というものをいかに伸ばしていくかということを考えてるわけですが、高校入試というものが変革しないと、やはり相変わらずというところができるんじゃないかな。その点は、まだ国のほうは方向性というのは出してきてはないわけですか。

○ベネッセ(西島) 高校入試について国のほうからというのは今のところないですね。ただ、各県の高校入試を見ると、少しずつPISA型まではいかないまでも思考力を問うようなものにだんだん変わっているような状況は全国的にはあるかなというふうに思っております。

○山脇教育長 ここは県のほうに言わないといけないことかもしれないですね。

○市長 それもあるでしょうね。我々として高校にどう問いかけをしていくか。これは県だけでなく私立の高校とか、広くそういうことも考えてもいいんじゃないかなというように思います。

私驚いたのは、この総合教育会議の開催回数が岡山市は断トツに多いと。でも、私はこれはすばらしいことなんじゃないかと。こういうふうに教育委員の皆さんと、それから市長部局も一緒になって議論して教育の問題を取り組んでいる。ある面、もう社会とかかわりが実践されてるみたいなどころもあるわけなんで、これは結構誇りに思ってもいいんじゃないかなと。そしてかつ、ここで議論したものが現実となって動いてきているということなんだろうと。大学生のサポート体制の確立とか、そういうふうに我々なりに一つの矜持を持っていいんじゃないかなという気がいたします。

あとは、こういう他市の例ももちろん参考にはなるんだけど、もうそういうことよりも岡山の子どもたちをどうするかというのは、100ページになってもいいし、半ページで終わってもいいし、こういうページ数とかなんとかというよりも、子どもたちにとっ



が一番いい、これから方針というのが我々の議論した結果としてどうあるのかということと判断していいんじゃないかというような気もいたします。これだけ議論させていただいてるわけですから、ある程度多岐にわたるというのもやむを得ないと思うし、やむを得ないというか、そちらのほうがいいのかなという気もしますし、そんなことでこれは私の感想ですけども、そういうような思いも持つところでもあります。

いいですか、塩田さんとか。

○塩田委員 6ページなんですけども、大綱をつくるに当たってパブリックコメントを募集したのが2市、それから神戸市は大綱策定に当たり、事前に意見を募集したということがあるんですが、もし神戸市の例でわかることがあったら教えていただけませんか。

○ベネッセ(梅田) 神戸市でございますけれども、ここに書いてありますとおり、大綱を策定する前に1回、市民の方々が教育に対してどういうふうな要望ですとか持たれているかということで事前に募集されまして、堺、熊本の場合でしたら2件とか3件とかそういうもう1桁台の意見だったんですけども、たしか神戸は400とかそれぐらい声が上がってきて、それをベースにカテゴライズしたりですとか、そういう形で検討を進められたようです。

○塩田委員 事前に意見を募集するということは、これから大綱をつくりますよというアナウンスというか、前ぶれのような形で、市民の方々が関心を持っていただくにはいい方法かなと少し思いました。

○市長 そうですね。関心を持つということとともに、教育というのはみんながやはり考えてますからね。そういう意見を事前に我々も承知をしておくというのも重要なことかもしれないですね。

奥津さん、何かありますか。

○奥津委員 今回いろんなところの、政令市ですけども、大綱にはいろんなパターンがあって、いろんな中身があるようで、それぞれ個性が出てくるのかなと思います。さっき市長もおっしゃったように、岡山は岡山の大綱をつくれればいいわけですし、まねする必要とか、参考にはしても、どの程度はしなきゃいけないということは余りこだわる必要はないのかなというのは全くそのとおりだと思うところです。

○市長 ありがとうございます。

それでは、議事を進めたいと思います。

昨年度1年間をかけて岡山市の教育の現状と課題について意見を交わしてきたわけですが、本日はその成果を踏まえながら我々として目指す子どもの姿・教育の姿とは何なのか議論を深めたいというように思います。

資料の2として、昨年度の総合教育会議での報告、協議内容の概要を示しております。これについて事務局から少し説明いただけるのでしょうか。

○事務局 はい、失礼いたします。

この資料2は、平成27年度の7回の総合教育会議等で報告あるいは協議された内容の中から主な点のみ、簡潔にまとめたものでございます。

まず、太い破線の中ですが、左側の列に岡山市の教育、主に子どもに関する教育ですが、現状と課題をまとめております。右側の列にその背景として考えられることをまとめております。

大きく6つに分けておりますが、一番上が主には心の問題、それから2つ目が学力に関すること、3つ目が問題行動等に関すること、4つ目が郷土を愛する心に関すること、5つ目が教職員の状況あるいは教職員の負担感等に関すること、6つ目が家庭や地域の教育に関することでございます。

そして、矢印より下のところに、この総合教育会議等の協議の中で委員の皆様から出された主なキーワードを挙げております。この中にはそれが事業として結びついていっているものもございますが、このようなキーワードが出されたということで今日の協議の参考にしていただければと思います。

以上でございます。

○市長 はい、ありがとうございます。

この資料の2が昨年度の総合教育会議での議論を集約したようなもののようにございます。これらを踏まえて今後の大綱の議論のこれも柱的なイメージとして捉えているわけですね。これからどうなるかは別にしてね。というようなことを踏まえながら、これ、このいい視点というのは残していかなきゃいかんとか、もっとこういう視点も入れるべきだとか、いろんな意見があるんだろうというように思います。それぞれの方のご意見、これは西島さんたちも入っていただいてご意見をいただければというように思います。

じゃあ、教育長から何かありましたら。

○山脇教育長 何をしゃべってもいいんですね。

○市長 何しゃべってもいい。今日はもう今年度の最初で、これからどうしていくかというところをお互いがベクトルの方向性合わせみたいなの、そんな。

○山脇教育長 それじゃあ、今市教委がやってることとあわせて私の思いというんですか、それらも含めて、ちょっと提案というの1つ含めながら、意見を言わせていただきます。資料2をベースに置いてというイメージはなかったものですから、思っていることとお話をさせていただいて、そしてまたそこに対する、もっとこうすればいいんじゃないか、ああすればいいんじゃないかというところについて出していただければということも思っています。

先ほどベネッセさんから言われた20ページのところを、これは国のほうからですかと言ったら、国のほうからですというお話でしたんですが、岡山でも今子どもたちはこれからの時代というものを見せた上で、これからの時代を生き抜く力と云えばいいのか、これからの時代の社会をつくっていくことのできる子どもというものを今考えておるわけでありますが、それがそのどのような社会・世界とかかわり、よりよい人生を送るのかというようなことと絡むところがあるんだろうと思っています。それを自立という言葉で言っていますけど、自分がよくならんといけんのは当然だろうと思うんですけど、自分だけよくなったんでは社会をつくっていけない。そのために、そこにあるような社会と世界とかかわって、よくしていこうということが要るんだろうかなと思って。

だから、一番大切なのは知識、能力でありまして、右側のような新たに物をつくり出していく力というようなこと、それから人間関係づくり、コミュニケーション能力というものをつくっていく、そういうものが必要であろうと。それを目指していているのが岡山市ではないかというふうに私自身は思っております。そのためにネットワークをいかに十分構築をしながら子どもたちに人づくりをしていくかということでありますが、詳しく申しませんが、地域協働学校と岡山型一貫教育と2本柱でしている中で、どちらもこれは人のつながりを考えているものであるわけです。

特に、岡山型一貫という中では小1プロブレムとか中1ギャップだったかな、というように学校間の段差があるところを、いかにもう少し段差を低くしながら子どもたちがそれぞれの学校になじんでいくことができるように、そして目指すべき方向は小学校も中学校も同じ方向を向きましょうということをシステム的に行っていければということの一貫教育を行っているわけでありまして。私は最終的には、これ、9年間のカリキュラムができないといけないだろうと思っています。9年間を通したカリキュラムづくりを

していかないといけないだろうと。そうすれば、岡山型一貫教育のある程度の完成形というところまで到達できるのかなと思っています。

先ほど申し上げた子どもたちがこれからの社会で活躍、社会をつくっていく力をつけていくためには、岡山の課題である学力アップ、それから人とかかわりを今十分できないから暴力に走っていくとか、暴力の方向に走っていくような子どももおりますので、それらをいかに低減していくか、削減していくかということになるだろうと思って。一番学校教育の中で学力をつけるにしても暴力行為を少なくするにしても、やはり基本は僕は授業だろうと思っています。子どもたちが学校生活の中で一番長く先生方、他の友達と接するのは、もう授業の時間です。

1日6時間、朝8時半から15時半ぐらいまでずっと一緒におるわけですから、その中で人間関係を崩そうと思えば、すぐ崩れてしまう。それをいかに子どもたち自身も学級づくりをしていき、授業の中で他の子どもたちを認め合うことができるかというようなことをしていけば、そしてまた授業自身もここで出てきてるアクティブ・ラーニングという視点ですね、どのように学ぶかという。主体的に能動的に子どもが授業に参画をする、そういう授業づくりをしていかねばならないと。それをしないと、子どもは居場所がないから外へおると、授業から出ていくというところも見えてきておるんじゃないかと。だから、居場所をつくってやらないといけない。それが授業であると思っています。

そういう授業づくりを2つだけ今やっているんですね。教育委員さんよくご存じなんですけれど、授業の1時間ごとのめあてをしっかりと持とうということと、めあてに対するまとめをしようということ。めあてに対するまとめというのは、要約力が要るんですね。まとめようとする。だから、要約力というのは大切だろうと思う。学んだことを要約をしていくと。そのものが思考力とか、表現力ということにもつながるかもわかりません。そういうめあて、そしてまとめ、もう一つは能動的な主体的な参画をする学習活動を含めてるかどうか。講義式の授業ではだめだということであろうというふうに思っています。

そのためには授業をそういう形にしていくことと、それから指導教諭が、今学校の中にいますから、その指導教諭にいかに活躍の場を設けるかと。指導主事に加えて学校現場における指導教諭を活躍させるということを思っています。また具体的にあればお話をしたいと思いますけれど。そしてまた、取り組んだことの評価、PDCAサイクルと。

それで、今回今年は少し取っかかりをつくって、平成29年度からは本格的にやっていくという、あれも評価をきちっとやっていこうということで考えているわけでありませう。

これと同時に、やはり補充学習が要ると。ドリルが要るだろうと。補充学習、ドリルをするのが授業の中で補充をしていくのと授業以外で個別に指導していくとか、そしてまた土日の活用、土日の時間の活用をいかに図っていくかと。これが学校外の施設ができれば一番いいなと思ってます。学校外の施設の中でいろんな人のサポートをいただきながら補充学習をしていくと。これの両面を考えていかないと、子どもたちの今目指していくべき学力についても向上を図っていくためには大切ではないかなというふうに思っております。

もう一つというのは、どうしても考えておかなきゃいけないのは特別支援の視点。特別支援教育の視点というものがないと、普通教室の中にいろんな子どもたちが入りまじっていますから、それがそういう福祉の面からのサポートもないと、当然これからの学校というものは成り立たないというふうに思っております。そしてまた、一番キーとなるのが教員ですから、教員の資質能力をいかに上げていくか。これは教育センターの充実ということが図られますが、ちょっと聞きますと何か国も言ってるんですかね、大学と教員養成とを何かものすごく、もうちょっと密着をさせて教員養成を図っていこうと。何か、そんな話もあるとちょっと聞いたんですけどね。

○ベネッセ(西島) すみません。私のほうはまだ聞いたことがなかったですね。

○山脇教育長 そうですか。できれば、そういう教育センターにも大学の先生がおるといような体制づくりだとか、そういうものができてくればいいのかなというふうに思っています。

それから、今回よく話題にこれも出てきた教師の多忙感ですが、私自身は教師はもともと忙しいんですね。子どもがいる間は目が離せない。私、ここへ来て、行政に入ってきてびっくりしたのは、昼休みがきちっととれるということ。学校だったら昼休みはとれないんですね。もう子どもがおる間は目が離せないし、課題に丸つけをしないといけないし。そういう面からすれば、もともと忙しいんだけど、そこにいかに手を差し伸べていくことができるか。だから、調査物を減らしていくことも要るだろうと思いますし、土日はもうぱっと空白の時間があるとか、そういうことも考えられれば、そういう体制のためには、人も要るのかもわかりませんが。そういうこともできればというようなことは思いますけど。もともと忙しいんですから、いかに今までのところを取って

くかというのはあるかもわかりませんが、完全にそのところを減らしていくことはできないだろうと思うんです。

そういういろんなことを思いながら、この育てる子ども像であるとか、目指す教育というものは今は岡山市教育委員会としては構想していきつつあるということであります。ただ、授業ですから、一挙に成果が一、二年で出るかといったら、なかなか難しいんですね。少し時間がかかるかもわからんにしても、それが一番確実じゃないかなという事は思っています。

○市長 ありがとうございます。

今、教育長の思いみたいなものが随分出てたと思います。長年、教育行政にタッチされ、やはりこれだけ変えていかなきゃいかなのじゃないかというような思いだったろうと思うんですが、今の山脇さんのご発言に対しまして、それぞれ何か思いがあれば、ご意見があればお願いしたいと思います。

西島さん、どうですか。

○ベネッセ(西島) 最初におっしゃってございました、このネットワークの構築が岡山の教育の根幹なんだというふうなお話は、ああなるほどなというふうに思いました。大綱につなげていくということと言いますと、そのあたりのところをどう深掘りして具体化し、市民の方、皆さんが理解してくださるような、あるいは協力してくださるようなメッセージにしていくのかというのがとても大事なところなんだろうなというふうに思いました。

あと、学力アップですとか、あるいは補充の学習をどうするかといったあたりのところも、喫緊の課題としては非常に重要なところだというふうに思います。恐らく先生方の授業のあり方を変えていくことでそこに結びつくので、そういった教育長の、今お話しになられたいろんな項目を体系的に整理をして、どこが根幹なんだみたいなところの整理をしていくと、大綱にしていくところで非常にきれいな形で整理ができるのかなというふうに感じながらお聞きしておりました。

あと、先生方の多忙感という話を昨年度も聞こえておりましたが、ある小学校に、これは三重県の小学校なんですけど、そこの校長先生とお話をしておきましたら、うちの教員は勤務時間はどこよりも長い。でも、どこよりもストレスは低いというふうにおっしゃってまして、勤務時間多忙であることだけではなく、そのストレスとの関係みたいなところもちゃんと抑えないといけないんだろうなと。やりがいを持ってうちの教員はや

ってるから、ストレスが一番低いんだと。でも、よく働くよみたいな話をされていたので、多忙が問題なのか、ストレスが問題なのか、あるいは体力的に厳しいところが問題なのか、何かそういうところを整理をしていかないといけないかなと、その先生の顔を思い浮かべながら思い出しておりました。

以上でございます。

○市長 はい、どうでしょうか。何かご意見ございますか。

とりあえずは今、山脇さんが話をされたことに関して、ご意見があればお願いをしたいんですけど。

よろしいですか、藤原さん。

○藤原委員 多忙感のところ、せっかく市長さんを中心に岡山市全体でやっているの、こうことができないかなと思うのは、テレビ会議ができるシステムが学校現場と行政とができる、例えばちょっとした研修なんかはテレビでできることであるとか、それから授業研究も教育センターと現場とを結んでできるとか、少々の校長さんへのいろんな示達事項であるとか、やりとりはできるとかすると、随分と岡山市は市域が広いので、1回会議へ出てくるといったら半日使う学校もあると思うんです。だから、そうすると階層研修のような、5年研とか10年研とか主幹教諭とか、そういう形のものも結構フレキシブルにできるのかなという感じがしてるので、そういうことが構築できるのか、予算の関係もあるのかなというのを考えていました。

○ベネッセ(西島) よろしいですか。横からすみません。

今の藤原先生のお話で、テレビ会議の仕組みは今、スカイプという無料のソフトがあって、恐らくオフィスと今、マイクロソフトが所有している形になっているので、オフィスが学校の先生方のパソコンに入っていれば、多分すぐに入って、カメラがなくても音声だけはパソコンでやりとりができたりしますので、カメラをつければ幾らでもできるかなと思いますので、すぐにできることではないかというふうに思います。

○市長 私、今、一つのキーワードとして、山脇さんが使われた中での9年間通してのカリキュラムというのは非常におもしろいというか、子どもたちを成長させるに当たって、9年間でどうやっていくのかということアプローチしていくというのは、すごいおもしろいことだなと。授業が中心だということは、これは多分、論をまたないだろうと思うんですよね。で、それを9年かけて一体子どもたちをどう成長させていくのかということを追っていく。これは何かすばらしいような気がするんですけどね。

○山脇教育長 9年、小は小、中は中で分けて考えるんじゃないで、やはり9年間の中で子どもをどう育てていくかというように考えた中でしたら、教育計画をそうつくっていかないといけないはずなんです。だから、その9年間のカリキュラムづくりをすれば、今言った岡山型一貫教育というのは完成するのかなというふうな。

○市長 岡山型一貫教育という言葉に私、非常に抵抗感がありましてね。何のことを言ってるかさっぱりわからない。だから、一部の先生方の間では、多分そこはわかっているんでしょうけど、市民の方々は理解できない。我々が一体どんなキーワード、どういう思いで教育に対して取り組んでいるのかというのは、中身、内容がないとそれは伝わらない。岡山型一貫教育って、何か岡山が特別なことをやってるんだよねということを伝えることにはなるんだけど、それ以外の内容については、僕は市民には伝わらないんじゃないかなと。

○山脇教育長 表だけの看板だけが動いているような格好に見えるんですね。

○市長 そういうことで、エッセンスの部分が市民に伝わらない。これはやはり市民に伝わらないと、一緒になってそういうことを、そういう具体の中身でやっていこうということにはならない。これは表現ぶりだけの問題ですから、すぐに変えられるんだろうと思うんですけど。ただやはり、授業が中心であり、この授業を補完するものとして、地域とか、いろいろなものをどう位置づけていくのかというのを考えていくということだというふうな気はするんですね。だから、もうおっしゃるとおりで、それをどう肉づけして、先生方にもご理解いただいて、みんなでやっていこうというふうなことになるのかということを議論していかないといかんというんですが、エッセンスはもう私も賛同するところでありましてけれども。

山脇さんのご発言に対して、よろしいでしょうか。

○奥津委員 市長もおっしゃったように、やはり学校というのは授業をやる場所で、そこに子どもが集まってきていくと。それが、またそこら辺で居場所をつくるということで、恐らくその学校自体とか、クラスがチームのような形になって、それでやっていくというのが一つの理想形だし、そこを目指していくのが理想的なんだろうと思います。ただ、場合によっては、そこでどうしても居場所を見つけられないとか、なかなかそこでなじめなかったりとか、そういうケースというのは出てくるわけで、そういう子どもたちをどうするかというのも、そこら辺のフォローというか、先ほど補充学習のような形の話も出てたんですけど、やはりそこをもっと真剣というか、しっかり人もシス



テムを入れてやるべきではないかなと思ってます。

岡山の一つの特徴というか、今回、総合教育会議の中でも出てきたかと思うんですけども、両極化というか、できる子はある程度できるけれども、できない子も一つの山としていると。割と学校によってそれも結構差があるよというような話があったかと思うんですけども、そういった意味で、また問題行動という面から見ても、なかなか学力が追いついていないところというのが出やすいということもあるんだろうと思いますので、そういったところのフォローというか、そういったところをしっかりと対応して、何とか底上げしていくということが重要になってくるのではないかなというふうに思ってます。

ある意味、教育というのは行政サービスだろうと思うんですけども、義務教育だというんで機会さえ与えておけばいいのかというと、なかなかそういう時代ではなくなっているのかなと思います。ある程度もう、その結果としての結果保証というか、ある程度学力をしっかりとつけて社会に送り出すということも一つの責任として持たなきゃいけない部分もあるんだろうと思いますので、そういった意味で、その基準に達していないあたりの子どもたちに対して、いろんな個別対応がそれこそ必要になってくるようなケースが多くなってくるかと思うんですけども、そういったことが必要になってくるのではないかなというふうに思ってます。

○市長 ありがとうございます。

何かありますか。

○塩田委員 はい。今カリキュラムという言葉が出てきたので、大学のほうを考えてみたんですけども、アウトカム・ベースド・エデュケーションという、OBEという言葉があって、6年間の教育で、学習成果としてどういうものを学生に身につけさせるかということがあるんですね。結局そのアウトカムのところをしっかりと決めておかないと、カリキュラムは決められないということですので、それが多分、私たちが目指すところの自立する子ども像をしっかりと決めて、それに到達するために、どういうカリキュラムを組んでいくかということが必要になるのかなというふうに思います。

だから、9年間通した教育で、その成果というものをどういうふうにイメージするか。そして、本当にそれを掲げたら、それを到達できるように私たちは全面的にみんなでバックアップしていかなきゃいけないというふうに思いました。

○市長 はい。では、ちょっと議論を拡大して、今の山脇教育長の発言以外のことでも気

がついたことがあればお願いいたします。

○藤原委員 今の9年間のことで思うのは、私たちも少し、幼稚園とかこども園とかに行かせてもらうことが時々あるんですよね。それを考えたら、高大接続と小中接続とともに、就学前と小学校がどういうふうに結びつくかというところまでおりていかないと、多分、小学校教育もなかなか難しいところがあるかなという感じがしています。

今、教育委員会管轄で義務教育を考えているんだけど、幼稚園はこの前まで教育委員会が所管をしていて、今も一緒にやってるわけなので、それを少し拡大するのがどうなのかなというのを思いながら聞きました。

それから、もう一つは、その自立する子どもを教育委員会としても岡山市としても目指していますが、よくよく考えたら現場の子どもたちは、自分たちは自立するために何かをしているなんかいう自分の意識があるのかな、どうかなというのを思います。これはもちろん教員が、学校がそれを意識して、それぞれの学校で学校目標をつくって子どもたちの目標をつくっているの、これは多分うまくいってるとは思うんですが、これを市を挙げて、もう少し子どもサイドの言い方で言ってもいいのかなと。それはどんなことかなと思ったときに、この次第をもらったときに考えたのは、例えば岡山市の子どもたちに、自立する子どももちろんあるんだけど、例えば未来を切り開こうとする自分をつくるのか、そういう形で少し自立から先にある、何のために社会との接点が、もちろんできないといけないんだけど、それは何のためにしているのかというふうなフレーズがどこかに入ると、例えば今度の教育大綱なんかのときには、わかりやすいかなという気がしました。

そのために、手段としてというか、方法としてどうするのかといたら、岡山が岡山っ子育成条例を持っていて、四者の責務を書いているんだけど、ネットワークとか、それからそれぞれの役割の意識というのは、まだまだだろうと思います。だから、その四者のことをもう少し掘り下げる、掘り下げるためにはどうするかといたら、広く一般的に言うだけだったならもう頭の上の辺で通り過ぎるので、もう少し狭い区域でその四者のことをおろしていく。

例えば、ほかの地域にはない事業者のことなんかも、岡山市全体の事業者で考えたら、なかなか大き過ぎるんですよね。だから、教育委員会がしない限りは学校園やそういうところではできないと思うので。例えば、いろんな商工会があるとか、いろんな地域にそういう組織というか、そういうあれがあったら、そこともうちょっと結びつく接

着剤を市のほうがするとか。家庭の自立にしても、協働にしても、なかなかかけ声は、地域の協働もあるんですが、もう一回そこにおりていくのがいいのかなという感じがしました。

○市長 具体的にどうしると。

○藤原委員 それは、例えば今の、もし未来を切り開くとなったときには、キャリア教育的なことが岡山市では少ないんですよね。いろんな職場体験なんかはしてるんだけど。そういうこの未来を見るときに、学校現場にその事業者がある程度入ってモデル的なことを見せるとか、そういうことが市を挙げてできれば、岡山っ子育て条例に書いてある四者の責務をそれぞれが果たせるかな。家庭や地域については、よくどこでもやっていることだろうと思いますが。

だから、大綱がもう一つできたときに、分量がどうかというのはともかく、目指す子ども像があるんだけど、私が勝手に考えたのが、例えば市長さんの言葉で子どもに呼びかけるような部分が1カ所ぐらいあってもいいのかな、こういうふうに育ててほしいと。教育長や教育委員会が学校現場にかかわることはとても多いし、こういう子どもに育ててほしいというのは。でも、未来をつくる、岡山市の将来を考えたときに、こういう子どもが育ててほしいという呼びかけのようなものが大綱にあってもいいのかなというのをちょっと考えました。

以上です。

○塩田委員 今の藤原委員さんと共通するところなんですけれども、この資料をいただいたときに、岡山市の現状と課題というのがあるって、一番上の囲みところに、岡山市では子どもの自己肯定感は全国に比べて高いというのがあるって、これは失敗も踏まえているんな体験をして成功体験を増やす、いいところを伸ばして行ってほしいという思いがありました。

それと一つ、気になっていたのが、反対に、将来の夢や目標を持っているという中学生の割合が全国よりも低いということがありました。だから、自分の将来像とか、それからもう、なりたい私みたいなものが、なかなかイメージとして持てないのかなという、そういうことを考えたんです。

それで、子ども目線で、自立した人になるというのはどういうことなのかということ、子どもたちが考える機会を増やしてほしいなというふうに思いました。子どもたちが考えて何かをするという、アクションを起こすというのに、スマホの使い方のルール

をつくるというので、岡山市は実際に子どもたちが考えて、それを行動目標みたいにして掲げているという1つ事例があるので、そういった形で子どもたちの目線で、自分たちはああ、こう思うというようなところも、そういう視点での教育というか、自立を促す機会を是非与えてもらいたいなというふうに思いました。

○市長 はい、ありがとうございました。

後は何がございますでしょうか。

○ベネッセ(西島) 大綱ですので、恐らく子どもたちが大人になって20年後、30年後の社会でどう活躍しているかというイメージからおろしてきて、今の学校教育でどんな子どもたちを育てて、卒業させていくのかというところに来なきゃいけないのかなというふうに思っています。

したがって、将来、いろんな言い方をされますが、グローバル化であったり、IT化であったり、人工知能がどんどん発達して、人間はどこで働くのかちゃんと考えなきゃいけないということが言われたりしますけれども、もう一言で言うと、激動な中でもたくましく、チャレンジングに生きていけるような子どもたちを、このようにして育てますというところがポイントなのかなと。そういうたくましい子どもにしますということは、どこでもうたいますし、いろんな学校の教育目標に掲げられてますが、じゃあ、それをどう達成するのかというところの約束がなかなかないというのが、学校の教育目標ですとか計画を、いろんなところを拝見して行って思うところで。

じゃあ、どうやってそういう力をつけていくんだということがわかるような何か大綱のメッセージがあると、あ、岡山は違うなというふうに見えてくるんじゃないかなというふうに思います。それは何かということ、学校の指導で先生方がどういうメッセージを子どもたちに対して発信するかということのバックボーンになるものだと思いますし、どういうふうにして、アクティブ・ラーニングという言葉もありますが、主体性をどう育むか。主体的にやれって言っても絶対やりませんから、主体的になれるようにどんな仕掛けを持っていくかというあたりが見えるような、何かそういうメッセージが出せたらいいのかなというふうに思っておりました。具体的な取り組み、いろんな学校での取り組みはお聞きしてますので、またご報告する場もいただけるといいかなというふうに思っております。

○市長 何かございますか、ほか。

○奥津委員 ただ、ふと今思ったのは、もし今、自分が例えば小学生とか中学生だったと

して、どんな大人になりたいだろうと思うかなと思ったときに、意外と当時自分が小学生だったときの心境とは大分違うだろうなというのが一つ思うのと、意外とこんな大人になりたいというのが、非常に想像というか具体的に考えにくい時代なんじゃないかなという気がしちゃいまして、なかなかそういった中で、目標とかそういう理想像を見せるというのは非常に難しい社会なのかなというふうには今感じました。ですので、子どもたちにとって理想とする将来像を提示するというのは、非常に重要なことですが、簡単なことではないだろうと思います。

○市長 教育委員会、総務局のほうから何かございますか。こういう視点を考えておいたほうがいいんじゃないかと。

○事務局(岸総務局長) あくまで私見ですけど、目指すべき姿とかで今もあるわけですよ、教育振興計画と岡山っ子育成条例。それをどうやって実現していくかという道筋というか手段、どこまで具体的に書けるかどうかわからないですけど、ある程度こうやってやっていきますよというような具体性がある方が、メッセージ性としたらインパクトがあるのかなと私は思うんです。

それから、教育委員会と学校現場との関係の中で何か伝えられるもの。具体的に持ってないんですけど、岡山市の教育委員会、学校現場も入れた教育委員会というのは、今年はこのことをやっていきましょうねとか、この9年間とか5年間はこれに向かっていきましょうとかという、ベクトルを揃えるというんですかね。教育委員会と各学校というのは、ある意味では上下関係というよりも対等なところもあるんだらうと思うんです。

だけど、岡山市の教育をまとめる教育委員会としての何らかのメッセージ性というのが出せていける。そしてそのメッセージで、よりいえば、具体的にどういう取り組みをしていこうかという、どこまで行けるかわかりませんが、何かそういう具体的なものがあれば、学校現場へ伝わりやすいんじゃないかなと思っております。

○市長 教育委員会側、みんな個人の意見で、教育長が最初に代表されて話されているわけですから、それ以外の話で何かあったら。

○事務局(安田教育次長) 今お話を聞いてて思ったのは、目指すべき姿というのがどの目線で書くかによって変わってくるのかなというので。学校現場の姿なのか、大人が活躍する社会を担うための子どもを育てるのかという、その辺もきっちりと議論をしておいたほうがいいなという認識を持ちました。

○事務局(天野教育次長) 今年、教育委員会が何を中心にやっているのかということと言

うと、教育委員会は今、先ほど教育長が申しましたように、授業を中心として人材育成を図っていくということが大きな柱になっています。先ほど市長さんからいろいろおっしゃっていただいた中の一つでぐさっとくることが、教育委員会が考えていること、あるいは校長先生が考えていることが一人一人の教員に伝わっているのかということです。そこができてなくて子どもたちの教育にまで反映することはできないというふうに思っておりますので、伝えるということは大切なんだなと思っております。

したがって、大綱もそういった伝わりやすいメッセージ性があるものがないのかなというような、そんな個人的な思いを持っています。

○市長 はい。私の感想も言わせていただきたいと思います。先ほどの西島さんのご意見というのは、そのとおりだと思いますね。我々、教育を何のためにやっているんだと。そもそもそこから入っていく。これは子どもたちのためにやっている。じゃあ、子どもたちのためになって一体何なんだというところを考えていけば、やはり子どもたちが大きくなって、そして堂々と羽ばたいて活躍する、そういう土台をつくるというのが教育なんだろうなということがあって。その子どもたちに、じゃあ何を期待し、何を我々が提供していくのかという議論で考えていく必要があるだろうというように思っています。

そういう面では、この資料2の中のキーワードも、もっともっと整理をしなければならぬ。情報化も国際化もそうかもしれないし、そしてそれとともに私、これは変にとられると議論が出ちゃうんですけど、しつけとか、やはりここで言う規範意識みたいなものをどうやって持ってもらえるのか、そういうこともすごい重要なんじゃないのかなというように思うんですね。

特に岡山、問題行動というのが非常に多く、ちなみにこの前、保護観察所の所長さんが、岡山から今度、異動で那覇に、沖縄に行ったんです。そのときの挨拶を聞いていましたら、問題行動ワーストワンが、自分が来たときは岡山だったと。で、今、沖縄がワーストワンになったから、もう悪いところを続けて行くんだとかということをお笑いながら話をされて、何ら悪気があるわけではない。ただ、そういうのが岡山は相当定着しているというところもあって、やはり我々大人が反省をしないといかんということなんだろうというように思うわけです。

岡山の子どもたちが根っから悪いわけでも何でもないので、どうやって子どもたちに規範意識を持ってもらえるのかということのも大人の責任であろう。それが将来的

に、子どもが成長して羽ばたいていくときに、持っていなければならない意識の中の大きな一つなんだろうというように思う。それをどうやって植えつけていくのか、こういうことが重要じゃないかなというように思いますね。

だから安田教育次長が言ったように、この視点をどうやって捉えていくのか。先生の立場だけで物を見ると言うよりは、どっちかという子どもたちの立場で物を見て、そのときの先生はどうしなきゃいかんのか、社会がどう関与していかなきゃならないのか等々を議論していくというほうが非常に素直な気がするんですけど。これに関してはどうでしょうか。

○山脇教育長 どの視点から育てるべきというか、育つべき姿を描いていくか。当然、教師の側のもあろうし、そしてまた、子どものことを考えたときに、どういう姿が生まれてくるかというのもあるだろうと。そこが一緒の方向性を向いていくべきではないかなとは思うんですけど。そこがかい離してしまっただけでは、教えてるほうと、教えられるほうと全く違う方向を向いてしまうということになってしまったんではいけないだろうかなということは思いますので、そこはもう少し子どもの視点というものから考えるときに、自分たちが活躍する15年後、20年後の社会というものをにらみながら、やはりそこは想定を考えていかないといけないかなと。

先ほども話してましたが、グローバル化というような話とか、国際化という話もありましたけれど、あるところを見ていると、今の子どもたちが職業につくときには、約65%は今ない職業につくであろうとか、それから今ある仕事の内容の48%は自動化されとんじゃないかとか、そういうような論説も出てきたりしてましたから、そこはやはり踏まえながら考えないといけないのは確かだろうと思いますね。今の子どもたちが20年後ぐらいの想定をしながら、そこは考えていかないといけないだろうと。それを大綱にどう結びつけていくことができるのかということになろうかなと思います。

それからもう一点、資料2の中にある、上から4つ目に出てますね。住んでる地域や岡山市の歴史とか自然に関心のある児童生徒の割合は低いというような。これは岡山の人であるとか、自然であるとか、文化的なものも含めて、これらの取り上げをきちっともう少しやっていかないと、子どもたちがじかに今の社会というか、自分たちの住んでいる場所、岡山というものも含めて意識をきちっとしながら育っていくかどうか。子どもたちは岡山以外のところで活躍する場というのは求められるだろうと思うんですけど、やはり、地につくのは岡山じゃないかなと。ですから、その4つ目のところもや

はり少し意識をしておかないと、少しじゃないですね、これはきちっと考えて、教育の中で位置づけておくべきであろうということは思います。

○市長 自分に対して誇りを持つというのは、生まれたところの文化、歴史が一体どうだったのかによるところは大きいでしょうからね。おっしゃるとおりなんじゃないかなと私も思いますけど。

○藤原委員 先ほど市長さんが言われた、本当そのとおりだと思ってます。それで、大綱の中にもう一回だけ、社会全体で育てるんですよというのを呼びかけるというのか、再認識させる必要があるのかなと。もちろん、公教育の質を高めるのは、保証するのは学校現場であったり、教育委員会が当然するわけですけども、それだけではいけないんです、社会全体で担うんだ、だからネットワークも必要だし。さっき言われた規範意識もあるいはどうするかと、もう中学校になった段階では既に遅いこともたくさんあります。だからこそ岡山市の中のいろんな委員会、子どもを中心とする委員会はたくさんあると思うので、保健福祉関係とか教育委員会とか。そういうところにもう一回ネットワークを組めるような、今でも組んではいるんだけど、大綱ができるということで見直すことができたなら、全体で育てることにつながるのかなと思います。

○市長 よろしいでしょうか。

事務局の方、今日はこうやって議論をして、今後の大綱に当たっての大きな頭の整理を今日はしていると。そして、今日の議論を踏まえ、また後、お話を何人か聞くかもしれないけれども、柱立てをこれで作っていくという作業にこれからなるというふうな理解でいいんですかね。

○事務局 かなり柱立て等はできるんですけど、じゃあ、それに対して何を打っていくかというところが、まだ余り出てきてないと思うんです。ですから、今日のようにフリートキング的にそれぞれの思いをもっともって言っていただいて、その中である程度柱立てに近いようなものが整理できたら、次に具体的にはどんなことができるかというのが、全部は無理かもしれないけど、いくらかでも具体性のあるというのか、イメージが湧くような方向性とかが出せたら整理しやすいのかなと思ってますが。

○市長 そうですね。単に絵にかいた餅はよくないでしょうから、具体的な施策でどこまで補強できるかというのはやらなきゃいかんでしょうね。

先ほど塩田さんが言われた話だけど、何ていうか、ある程度の柱ができたところで、市民の皆さんの意見を聞いてみるというのも必要なのかもしれないですね。どういう形



がいいのかは今後相談をするにしても、やはり教育問題というのは全ての市民が関心を持っている話ですから。先ほど、岡山型一貫教育という名前に関して失礼なことを申し上げましたけれども、少なくともこの大綱をつくる間だけでも、市民の人に直接各施策というか、そういうものを、今の我々の動きというか、考え方を理解してもらい、かつ、いろんな意見をもらうというのはいいことなのかもしれませんね。だから、またそれは別途相談をさせていただくようにいたしましょうか。

山脇さん、そういうことでいいですね。

○山脇教育長 やはり具体的なのを。柱というのは、それをイメージした中で、いかに具体を考え、その具体がそのままが出るかどうかは別として、そこは必要なんじゃないかなど、イメージしておかないといけないんじゃないかなという気はしますね。

○市長 よろしいでしょうか。

今日は、結構全体の大きな方向性については議論が相当出たのではないかなというように思っております。

今日のご意見を踏まえて事務局のほうでも整理してもらって、次のステップをどういうふうにするか、少し考えてもらって動くということにいたしましょうか。とりあえず、今年度中の大綱策定を目指していくということで。そして、これからのスケジュールについて、肉づけをしていただくということにいたしましょうか。

じゃあ、最後に何か全般についてご意見があればお願いをいたしたいと思いますが、よろしいでしょうか。

はい、じゃあ、そんなことで、最後よろしくお願いします。

○事務局 ずっと教育長、市長、それから教育委員の方とお話ししているんですが、構成員じゃないんですけど、誰か適任を探して、少しいろんな角度から助言いただけるようなメンバーを増やすという方向性があってもいいので、そちらも考えてみたいなと思っておりますので。

○市長 確かにこの1年間、このメンバーで議論をさせていただいて、考え方がだいぶ我々の間では整理ができていっているのかなとも思いますが、市民の方、いろいろな方がおられますから、せっかく大綱をつくるに当たっては、有識者の方の意見をもっと聞くというのも、私もあるんじゃないかなと思います。

よろしいでしょうか、今の考え方で。

はい、じゃあ、その線でもよろしくお願いします。

最後、じゃあ、事務局のほうで締めてください。

○司会 はい、ありがとうございました。

次回の会議については、日程が決まりましたら改めて通知をさせていただきます。

以上で、平成28年度第1回岡山市総合教育会議を閉会いたします。お疲れさまでした。